

独立行政法人地域医療機能推進機構

JCHO 登別病院通信

Japan
Community
Healthcare
Organization

発行日 2023年10月

NO.23



登別郷土資料館 撮影者 鳴海 明 様

今月号の内容

- 4年ぶりの登別地獄まつりに参加して
- 令和5年度 認知症看護研修に参加して
- インフルエンザワクチン接種のお知らせ ● シリーズ糖尿病
- 部署紹介 ● 通いの場(サロン)支援事業に参加して ● 外来診療のご案内



4年ぶりの登別地獄まつりに参加して

～登別温泉は熱かった～

リハビリテーション室 副理学療法士長 成 田 元 気

令和5年8月25日～27日の3日間に渡り、登別温泉町では『第60回登別地獄まつり』が開催されました。ここ3年間、地域を盛り上げるイベントは息をひそめておりましたが、コロナが5類へ移行後の今年の5月からは、各地で祭りなどのイベント開催のニュースが届くようになり、「今年こそは」と登別国際観光コンベンション協会からの連絡が来るのを今か今かと心待ちにしておりました。

当院は平成26年にJCHO登別病院と組織が変わり、以前は登別厚生年金病院として登別温泉町に所在しておりました。そして、登別地獄まつりには毎年参加しておりました。当時は「厚生年金女みこし」という名物みこしがあり、職員の多くが参加し、地域住民の皆様方や観光客と一緒に楽しく祭りを盛り上げておりました。そんな楽しい記憶が色濃く残っている事もあり、今年も以前のように参加したい！と強い想いはありませんでしたが、残念ながらまだまだ残るコロナ感染症の流行を考え、人数の調整をして2日間だけの参加をしてきました。

皆さんは祭りの衣装の、半纏（はんてん）・腹掛（はらがけ）・股引（またひき）・足袋（たび）をご存じでしょうか？半纏（法被）は町内のお祭りでもよく見る衣装ではありますが、腰掛・股引となりますと玄人向けで、ピンとこない方もいると思います。今年は4年ぶりという事もあって初めて参加する職員が多く、まずは着方の指導から祭りは始まりました。初見で着用できる人はまず見たことありません。そして、衣装を一式着た後は、見た目も気持ちも一気に「お祭り男・お祭り女」となります！もちろん、私たちは医療人



として、感染対策を十分に配慮しながら全力で祭りに参加させて頂きました♪ 久しぶりの祭りを一言で伝えるとしたら「登別温泉も私達もいつもより温度が上昇した3日間でした！」

これからも地域の皆様の健康を守り、地域を支え、そして地域を盛り上げるJCHO職員でありたいと思っています！末永くよろしくお願い致します。

～初めての登別地獄祭り～

東病棟 看護師 宮 谷 奈 央

8月27日に行われた「鬼踊り大群舞」に参加しました。今年度JCHO登別病院に就職し、このようなお祭りがあるのを初めて知りました。

実際に参加してみて、お揃いの法被を羽織り、職員だけではなく地元の方や観光客の方たちが楽しそうに踊っているのを見て、すごく大きなお祭りで盛り上がっていると感じました。すぐに覚えられる踊りのため、観光客の方たちも一緒に踊っていました。音楽だけではなく、太鼓を叩く人もいて迫力のある踊りだと思いました。

鬼踊り大群舞の後はフィナーレとなる鬼花火を見ました。鬼が花火を持ち下から花火が上がっていて自分に降りかかってくるのではないかと思うくらい、ものすごい迫力があってとてもきれいで楽しかったです。

部署が違う同期と普段話す機会が少なかったのですが、話をしたり、写真を撮ったりして交流を深めることができ、お祭りに参加して良かったと思いました。

地元の方はもちろん、観光客の方も参加できるようなお祭りはとても盛り上がるものだと感じました。また、JCHO職員でも違う病棟や他職種の方と接する機会が少ないので、行事に参加することは大事だと思いました。来年も機会があれば、参加して楽しい思い出を作れたらいいなと思いました。



令和5年度 認知症看護研修に参加して

西病棟 看護師 貫井 彩夏

認知症患者様への看護や、望むような生活環境を整えることができないことへのジレンマに悩んでいる中で、受講の機会を頂きました。研修の中で印象に残っていることが2点あります。1つは、細かなところまで患者様を知ることが、今後の患者様の生活や認知機能の維持に繋がるということ。2つめは、患者様の行動の裏側を捉えることです。この2点を考えながら看護しなければ、患者様の身体機能や認知機能の低下に繋がりがかねないということです。患者様がすることは可能な限りできるように、患者様と同じ目線で行動の意味を考えることで、適切な看護ができると学びました。今、ご自宅で認知症のご家族の介護をしている方は、たくさんいると思います。「どうしてこんなことしたの?」「何しているの?」と驚きや怒りの気持ちを感じることがあると思います。そのような時は、まずは深呼吸をして心を落ち着かせ、「何をやりたかったの?」と行動の裏側を捉える声かけをしてあげてください。そこには、ご家族が気づかなかった理由があるかもしれません。今回の研修で学んだことを、日々の看護で活かすことで、認知症患者様がその人らしく過ごして頂けるようにしていきたいと思っています。



令和5年度 インフルエンザワクチン接種のお知らせ

10月10日(火)より開始

●ワクチン接種をご希望の方

月曜日～金曜日 午前8時30分～11時30分

学生受付時間 平日(火曜日以外) 午後2時～午後4時30分 (予約不要)

※在庫がなくなり次第終了となりますのでご了承ください
予約は行っていないので直接ご来院ください

●3歳以上～13歳未満…1回目 ￥3,000
小児の料金は変更となっています 2回目 ￥2,500

※2回目のみの予防接種は受付できませんので併せてご了承ください

●13歳以上… ￥4,000



当院で健康診断を
受けられる方へ

健康診断検査日と同日にインフルエンザワクチン接種を希望する方は予約時または検査前日までにこちらへご連絡ください。

健康管理センター ☎(0143)80-1137



シリーズ糖尿病 最終回



糖尿病内科外来 國 崎 哲

さて今回は、前回に引き続き糖尿病の合併症について、話題提供させていただきます。今回は糖尿病性神経障害についてスポットライトを当ててみたいと思います。

【糖尿病性神経障害】

糖尿病性神経障害は、糖尿病を発症後約5年以上経過した時点より、血糖コントロール状況に応じて、発症するとされております。神経障害の種類としては、多発神経障害と単神経障害、自律神経障害があり、臨床的に高頻度に見られるのは多発神経障害とされております。ただし診断には、糖尿病以外の原因による神経障害との鑑別が必要とされております。

多発神経障害と鑑別すべき疾患としては、手根管症候群、頸椎症、後縦靭帯骨化症、腰部脊柱管狭窄症、アルコール性ニューロパチーが挙げられます。

糖尿病性多発神経障害の簡易診断基準については、以下表1に挙げておきますので、一度目を通して頂ければと思います。

次に単神経障害ですが、症状としては、突然の単一神経麻痺が起こる事が有名で、外眼筋麻痺や顔面神経麻痺が多く、こちらに関しては、糖尿病罹病年数や血糖コントロールに相関せず、95%以上の症例で3カ月以内に自然寛解と言われております。

最後に自律神経障害ですが、起立性低血圧、発汗異常、消化管運動神経機能低下による嘔気、嘔吐、便秘、下痢や、過活動膀胱、勃起障害（ED）といったように多岐にわたります。また特に問題となるのが、低血糖時の交感神経の反応が低下してしまうことです。その結果、無自覚低血糖のリスクが高くなり、低血糖昏睡や低血糖脳症を発症するリスクが高くなってしまいます。

糖尿病歴が長い、高齢の患者さんでは、この傾向が強くなりますので、より注意が必要と考えます。

表1 糖尿病性多発神経障害の簡易診断基準

必須項目（以下の2項目を満たす） 1. 糖尿病が存在する 2. 糖尿病性多発神経障害以外の末梢神経障害を否定しうる
条件項目（以下の3項目のうち2項目以上を満たす場合を神経障害ありとする） 1. 糖尿病多発神経障害に基づくと思われる自覚症状 2. 両側アキレス腱反射低下あるいは消失 3. 両側内踝の振動覚低下
注意事項 1. 糖尿病性多発神経障害に基づく自覚症状とは、 ①両側性 ②足趾、足底のしびれ、疼痛、異常感覚のうちいずれかを認める 2. 振動覚は音叉にて10秒以下を目安とする
参考項目 以下の参考項目のいずれかを満たす場合、条件項目を満たさなくても、『神経障害あり』とする 1. 神経伝達検査で2つ以上の神経でそれぞれ1項目以上の検査項目（伝達速度、振幅、潜時）の明らかな異常を認める 2. 臨床症候上、明らかな糖尿病性自律神経障害がある しかし、自律神経機能検査で異常を確認することが望ましい

糖尿病性神経障害を考える会 2002年1月18日改訂



部 署 紹 介

訪問看護ステーション

小 松 絵美子

JCHO登別病院附属訪問看護ステーションは、平成27年5月に開設し、8年が経過しました。現在3名の看護師で50名（9月末）の利用者様の訪問を行なっています。

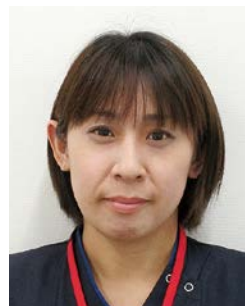
対象の地域は登別市と白老町（一部を除く）で、要介護認定を受けている方も、受けていない方も利用することができます。

訪問看護とは看護師がご自宅に伺い、体調の確認、医療器具の管理、傷の手当、介護相談やアドバイスなどの様々なケアを提供するサービスです。医師からの指示があれば、病気の種類、障害の有無に関わらず、どなたでも利用が可能です。訪問回数、サービス提供時間などについては、体調やケアの内容、医師の指示、ケアマネジャーさんが作成するケアプランに基づいて利用者様と相談し決定していきます。

私たちは、住み慣れたご自宅で療養を続けたいと願う方々の気持ちに寄り添い、体調維持ができるように様々な提案をしながら支援をさせていただいております。

点滴や管の管理などの医療処置が必要な方、お薬の管理に負担を感じている方、体調の変化が大きくご自宅での生活に不安がある方、初めての介護をされているため不安がある方などは、ぜひご相談ください。

また、医療処置などの特別なケアが必要ではない方も、看護師がご自宅に伺い体調確認などを行なうことで安心感につながることもあるかと思います。退院後の不安がある時期だけ利用してみたいといったご希望にも応じます。お気軽に担当のケアマネジャーさんまたは、訪問看護ステーションにご相談ください。



● 通いの場（サロン） 支援事業に参加して ●

リハビリテーション室 理学療法士 國 井 祐 良

当院のリハビリテーション室には保健活動委員会があり、外部活動班として「通いの場活動支援事業」に参加しました。通いの場は「サロン」とも言われており、地域住民が気軽に集まり、地域の介護予防の場として、体操や運動で体を動かしたり、レクリエーションを行ったり様々な活動を行っています。



令和4年度は月1回ずつ5カ月間に渡り参加しました。活動内容は、参加者の体力測定（10m歩行、握力）の実施や、フレイル等についての健康講話、「かるやか体操」の指導と実践、50音カルタを使用したレクリエーションなどを行いました。「かるやか体操」では繰り返しの実践で参加者が段々と上達し、レクリエーションでは参加者同士で協力する場面が見られ私も「やって良かった！」と感じました。

初めての支援事業は緊張と不安がいっぱいで、本番では自分の声が少し小さくなり、体操の説明がうまく伝わらない場面もありましたが、参加者からは温かい拍手と「次も来てね!!」など温かいお言葉を頂くことができました。事業内容に沿った事前準備が必要であり大変な事が多かったですが、声の大きさや参加者に分かりやすい説明など上手くできなかった点は次回に活かせる事が多く、良い経験ができたと感じています。

令和5年度も10月から支援事業が開始予定であるため、今年度も積極的に地域に貢献していきたいと思います。



● 外来診療のご案内 ●

診療受付時間 8時30分～11時30分
診療開始時間 9時（脳神経内科9時30分）～

● 外来診療担当医

		月	火	水	木	金
整形外科	午前	小澤 慶一	小澤 慶一	江崎 克樹	小澤 慶一 (予約10時迄)	江崎 克樹
		金江 剛	江崎 克樹	金江 剛	松本 洋太	金江 剛
				松本 洋太		松本 洋太
内科	午前	石川 典俊	石川 典俊	石川 典俊 最終水曜 糖尿病専門医 國崎 哲	石川 典俊	石川 典俊
			代田 充	代田 充	代田 充 (第2・第4)	横山 豊治
脳神経内科	午前				出張医	
泌尿器科	午前			出張医		

● 診療体制が変更となる場合があります。その際は院内告知やホームページ上でお知らせします。



〈各交通機関〉

- JR登別駅下車（特急列車停車）（徒歩10分）
- 札幌－室蘭高速バス登別下車（徒歩7分）
- 道央自動車道：登別東インターより2分



独立行政法人地域医療機能推進機構登別病院

〒059-0598 登別市登別東町3丁目10番地22

TEL (0143) 80-1115 FAX (0143) 80-2250

URL : <https://noboribetsu.jcho.go.jp>

Mail : main@noboribetsu.jcho.go.jp

JCHO登別病院通信 No.23

2023年10月発行

出版責任者 院長 石川 典 俊

編集長 事務長 長 尾 真 人